

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」をさらに深化していく	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ・学びのシンポジウム実施 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	●グローイングアッププラン3年間の総括・検証 ○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○他教科・校種間連携 ・1つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施
確かな学力の育成	意欲的に学ぶ	・小中合同授業研や公開授業・校内研修 ・「授業が楽しい」といえる生徒の姿の研究 ・各教科における「書く機会」の設定 ・ユニバーサルデザインに基づく授業づくり ・生徒主体の授業づくり・朝の読書 ・基礎・基本の定着・家庭学習の定着 ・長期休暇を利用した学習指導	グローイングアップ3か年計画の中間総括と計画の見直し	グローイングアップ3か年計画の総括と検証
豊かな人間性を育む	進路を切り拓くために必要な力をつける	○道徳教育・人権教育の推進 ・行事や集団作りなど、生徒の活動に生かせる道徳教育の推進 ○キャリア教育の推進 ・進路を自分で切り拓くために必要な力について検討する。 ・「自立」を促すしかけをつくる。 ○豊かな人間性を育む教育 ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。	○道徳教科化に向けて ・多様な指導方法による授業づくりの模索 ・道徳科評価について ○キャリア教育の推進 ・進路実現に向けて必要な力をつける取り組みを見直す。(「計画力」をテーマに) ○豊かな人間性を育む教育 ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。	○教科としての道徳教育 ・「考える道徳」「議論する道徳」 ○キャリア教育の推進・実践 ・前年度までに取り組んだことを、意識して実践し検証する。 ○豊かな人間性を育む教育 ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。
健康・体力の増進	苦手でも好き！生涯にわたって、いろんな種目にふれる・やってみる！	●苦手・好きを知るためにやってみる《課題発見》 ・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・「体育好き？」アンケートの実施 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」5分間走の実施。 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施。 ・体力向上プロジェクト 中津小学校授業研修	●好きを増やす《実施・実践》 ・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・「体育好き？」アンケートの実施 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」5分間走の実施。 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施。 ・体力向上プロジェクト	●3か年計画の総括・検証《結果》 ・年間授業計画の見直し ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・「体育好き？」アンケートの実施 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」5分間走の実施。 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施。 ・体力向上プロジェクト
支 援 教 育 の 充 実				

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
「漢字を読む(覚悟)」
- ・もっとも正答率の低かった設問
「話し合いの記録として適切な言葉を考える」
- ・もっとも無解答率の高かった設問
「漢字を書く(キボ)」
- ・正答率が全国平均より大幅に上回った設問
「楷書と行書との違いを理解する」

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
「目的に応じて必要な情報を読み取る」
- ・もっとも正答率の低かった設問
「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」
- ・もっとも無解答率の高かった設問
「同上」
- ・もっとも無解答率の低かった設問など
「目的に応じて必要な情報を読み取る」

分析

A問題の結果は概ね良好であり、全国平均の正答率を上回った。しかし、B問題は良好ではあるが、全国平均を下回る結果となった。詳細については、前年度と同様、文章を読み、その内容を理解して整理する力が身につけていると考えられる。そのため、選択肢を示されれば自身の考えに基づいて正しいものを選ぶことができる。また、短答式の問題においても、積極的に解答しようとする傾向がある。こういったことから、自分で考え、表現しようという姿勢がみられる。

一方で、記述式の問題の無解答率が高い傾向にある。自分の中に考えがあっても、文章として論理的に組み立てる力が不足していると考えられる。また、漢字の読み書きや適切な語句の使い方の正答率も低いので、テストのために覚えるのではなく、意味や使い方を理解し、語彙を増やす必要がある。

今後は、引き続き基礎を大切に授業を展開し、語彙力や考える力を養っていく。さらに、多様な言語活動に取り組むことによって書く力を高めていく必要がある。

数学

数学A

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

○もっとも正答率の高い設問
「分数の乗除」
○もっとも正答率の低い設問
「反復横跳びの範囲」
○もっとも無解答率の高い設問
「長方形の縦の長さとの面積の関係」
○もっとも無解答率の低い設問
「分数の乗除」「2つの負の数の和」
「回転体」「立体の見取り図」
「錯角の意味」「線香の長さと時間」

数学B

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

○もっとも正答率の高い設問
「グラフを読み取る」
○もっとも正答率の低い設問
「回転移動を表現する」
○もっとも無解答率の高い設問
「貯水量の日数を求める」
○もっとも無解答率の低い設問
「平面図形の対称性」
「万華鏡の対称性」

分析

数学Aは、概ね良好な結果であった。「数と式」「図形」「関数」の領域において、全国平均の正答率を上回った。しかし、「資料の活用」では全国平均を下回っている。基本的な計算力や考え方は身につけていると考えられる。「資料の活用」でも、よく目にする3問の正答率は全国平均以上であるが、見たことのない1問が10ポイント平均を下げたために、全4問では全国平均以下になってしまっている。読解力や思考力を問われるような問題に課題がみられる。逆に言えば、よく目にする入試問題や計算問題は、1年次から宿題プリント等で、反復練習をしており、解答できる傾向がある。

数学Bも、概ね良好な結果であった。大阪府の平均をほぼすべて超えている。全国平均と比べると「数と式」と「図形」が下回り、「関数」と「資料の活用」が上回った。本校は全国と比べると、短答式よりも記述式問題がやや優れていた。無解答率が全国よりも高いのは、あきらめてしまったのか、時間がなかったのか不明だが、どちらにしても時間をうまく使えるように、見通しをもって問題に当たる練習も必要であろう。演習問題については、既存の入試問題に併せて、問題解決学習などグループワークなどを通じ、思考力を養っていく必要がある。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

正答率は年度によって多少の差はあるが、数年間で比較するとほぼ横ばいとなった。全国平均と比較すると国語 A、数学 A は高く、国語 B、数学 B は低い結果となったが、この 4 教科を平均した結果は全国平均より高い結果となった。4 教科とも全国平均との差はわずかで、ほぼ全国平均に近い値となった。

無解答率は昨年度、一昨年度より上昇した。

学力高位層と学力低位層、エンパワー(EP)層についての分析

高位層の割合は年度によって差はあるが、今年度も全ての教科において、全国平均より高くなった。

低位層の割合は数学 A を除く全ての教科で、全国平均より高い結果となった。また、数年間で比較してもやや上昇する結果となった。

低位層の中でも EP 層の割合が全国平均よりもさらに高い結果となった。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

- ・中学校ブロックで連携し、小中合同授業研や公開授業を行う。小中連携により 9 年間を見据えた授業作りを目指す。
- ・校内研修を行い日々の授業に役立てる。
- ・生徒主体の授業づくりを進める。
- ・ユニバーサルデザインに基づく授業づくりを進める。
- ・各教科において「好き」といえる生徒が増える取組みを研究する。
- ・各教科において「書く機会」を設け、苦手意識の克服を目指す。
- ・基礎学力の定着を目指して「鉄人テスト」を行う。
→基礎内容の復習を定期考査 2 週間前から取り組み、定期考査に向けた学習をスムーズにスタートすることを目指す。「できた」を実感し、前向きに取り組む姿勢を育む。
- ・既習事項の確実な定着を目指した、定期考査前の補充学習を実施する。
- ・活字に親しむ機会を増やすとともに、1 日の生活をスムーズにスタートさせるため朝の読書を行う。
- ・宿題の提出を徹底するために、未提出者への声かけや放課後の学習指導を行う。
- ・学校と家庭で連携し、家庭学習の定着を目指す。そのために「1 週間の提出物」を習慣化させる。
- ・長期休暇を利用した、学習指導を行う。

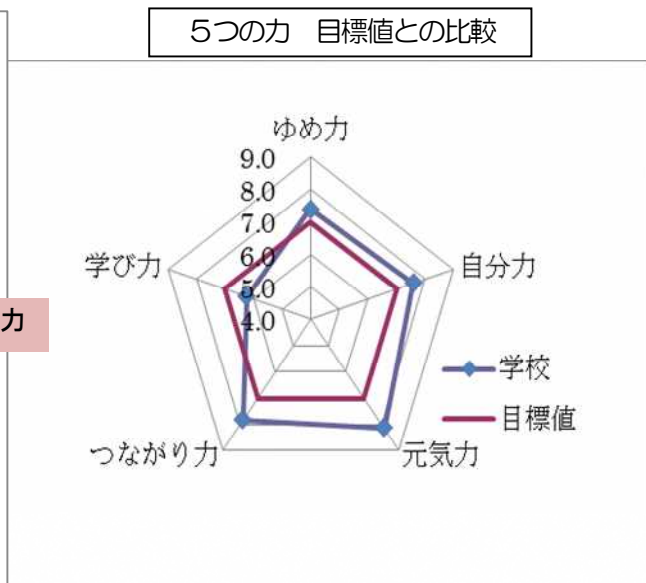
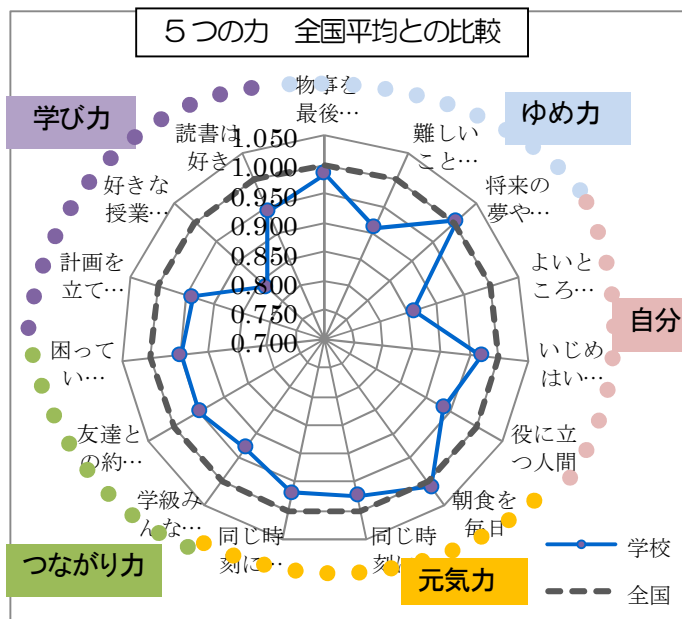
【国語】

- ・古文に慣れ親しむため、暗唱して声に出すことに慣れさせる。(百人一首も活用)
- ・文章を書くことへの苦手意識をなくすために、様々な場面で書くことを実践していく。
- ・語彙力を増やすため、読書活動を生徒に勧めていく。
- ・漢字の確認テストを定期的に行い、漢字の読む・書く力をつける。
- ・各単元ごとに、内容の確認と応用力の育成のために課題を設ける。

【数学】

- ・基本的な計算力をつける取組みを引き続き行う。例えば、計算演習の授業、放課後の勉強会を定期的実施する。
- ・身の回りの事象を取り上げ、数学的な方法を用いて解決するような問題解決型学習を多く設定する。
- ・計算だけではなく記述式問題を増やし、自分の考えや解き方を説明するような授業づくりを進める。

○●子どもたちに育みたい力●○



分析

ゆめ力…「難しいことでも挑戦する」は課題の残る結果となったが、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」は91.2%、「将来の夢や目標を持っている」は71.3%の生徒が当てはまると答え、概ね良好な結果となった。

自分力…「自分にはよいところがある」と答えた生徒は60.8%となり課題の残る結果となった。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたい」は当てはまると答えた生徒は全国平均よりやや少なかったが、概ね良好な結果となった。

元気力…どの質問に対しても概ね良好な結果となり、基本的な生活習慣が身についていると考えられる。

学び力…「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」は当てはまる生徒と当てはまらない生徒が半分に分かれた。「好きな授業がある」は62.4%が当てはまる、37.5%は当てはまらなと答えた。「読書は好き」は69.1%が当てはまると答えた。学び力は全体的に課題の残る結果となった。

また、「1日当たりのテレビなどの視聴時間、メールやインターネット、ゲームに費やす時間」はそれぞれ、4時間以上と答えた生徒が15%～20%であった。家庭学習において、平日、休日に「1日当たり数時間勉強する」と答えた生徒が一定数いる一方、「30分より少ない(平日)」生徒は17.6%、「1時間より少ない(休日)」生徒は45.3%であった。「家で、学校の宿題をしている」と答えた生徒は73.5%であった。1日当たりの読書時間(平日)においては「全くしない」と答えた生徒は43.1%であった。どれも、課題の残る結果となった。

「原稿用紙2～3枚に説明や感想を書くことは難しい」、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書くことは難しい」は、それぞれ約65%の生徒が当てはまると答えたが、昨年度まで取り組んだジャンプアッププランのスタート時より改善されており、各教科での「書く」取組みの成果と言える。

取組み

①人権教育の充実と深化

- ・教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等、全教育活動の中で、人としての生き方を考える。
- ・自分も仲間も大切にし、互いに支え合い励ましあい高めあう生徒集団の育成を目指す。

②学び力の向上

- ・「学力向上に関する取組み」に沿って進める。
- ・学校と家庭で分析結果を共有し、家庭学習の定着と宿題提出の徹底を目指す。
- ・学校生活全体で「学ぶ楽しさ」や「学ぶ喜び」、「学ぶ厳しさ」、「学ぶ大切さ」などを体験し、「学ぶことが好き」という生徒が増える取組みを研究する。
- ・学校生活全体で「書く機会」を取り入れる。

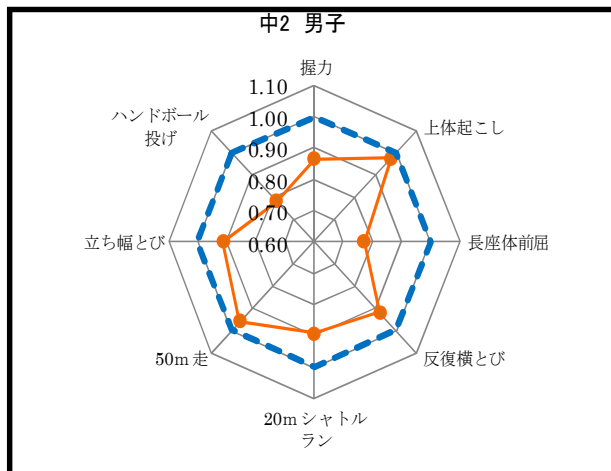
③生活指導の充実

- ・保護者や地域と連携を深めるとともに、生徒が安心して過ごせる学校づくりを目指す。

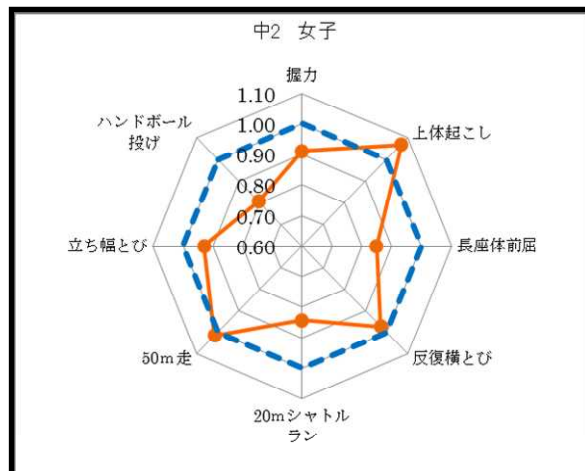
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

〇●体力●〇

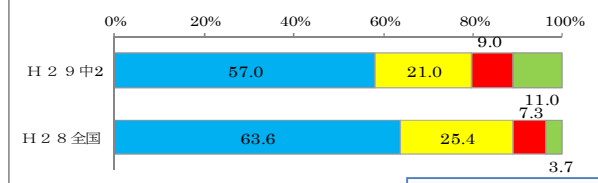
男子 (中2)



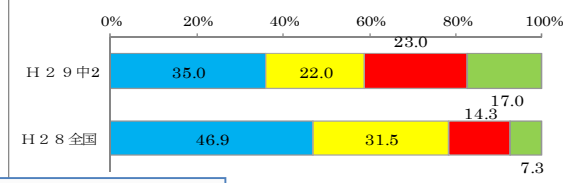
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

分析

本年度の2年生男子は、身長・体重ともに全国平均・府の平均・市の平均と全てにおいて下回っており、運動能力においても課題がある結果となった。

一方、2年生女子は、身長・体重ともに全国平均・府の平均よりも上回っているが、運動能力において大きく下回る結果となった。

また、男女ともに『長座体前屈』と『ハンドボール投げ』の数値が他に比べて大きく劣っていることがわかる。柔軟性と投力において課題があることがわかった。

そのなかでも、女子の『上体起こし』では、全国平均を大きく上回る結果となっている。

しかし、1年生時に測定した記録と比べてみると、種目ごとに伸びの差はあるが、ほとんどの種目において記録が伸びていることから、体育の授業やクラブ活動・さまざまな行事などで体を動かし、運動の成果が出ていると考えられる。

ボール遊びや体を動かして遊ぶことのできる場所が減ってきている今、学校体育のなかで多くの領域の運動を積極的に挑戦し、生涯にわたって続けられる運動を見つけ実践していくことが大きな課題といえる。

取組み

- ・新体力テストを継続して実施し、個々の体力を分析・検証する。また、小学校からのデータを引き継ぎ分析・検証する。
- ・毎時間の体育授業時に実施している『補強運動(ランニング・腕立て・腹筋・背筋・馬跳び)』の充実を図る。
- ・授業時の球技のときに『投げる』動作の練習を積極的に取り入れるようにする。
- ・駅伝・マラソン大会を継続して実施する。
- ・年間授業計画に、球技種目を積極的に取り入れるようにする。
- ・クラスマッチの種目に積極的に球技を取り入れるようにする。
- ・授業で長距離走を実施し、タイムトライアルも積極的に取り入れるようにする。
- ・さまざまな領域の運動を実施し、生涯にわたって運動を続けられるよう手助けする。
- ・小学生へのクラブ体験を実施する。
- ・小学校の連合運動会の練習のため、陸上部の出前指導を実施する。